

第42号

発行/平成25年8月1日
米沢興譲館同窓会
会報 編集委員会

当会報の題字は、第
19号から奥山徹石氏
(昭和28年卒)の揮毫
によるものです。

米沢興譲館同窓会会報



ごあいさつ



平成二十五年度 同窓会総会・懇親会
実行委員長 奥山 隆
(昭和五十三年卒)

同窓会員の皆様におかれましてはますます
ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、今年も九月二十一日(土)に興譲館同
窓会総会・懇親会が開催されます。今年度
は私たちの学年をはじめ、昭和五十七年・
六十二年・平成五年・十年・十五年卒のメン
バーにて微力ながらお手伝いをさせていただ
きます。今年のテーマは一番の若手平成十五
年卒の提案で「興譲で結ぶ、新たな縁と旧来
の友」NOKORO, NO LIFE」といたしました。
藩校創設以来の「興譲」の精神と未来を
創造する若い力の融合の志を胸に今後の同窓
会・懇親会開催のステップとなるべく実行委
員一同がんばっていきたいと思っております。
当日は旧来の仲間と再会し大いに語り合い
盛り上げていただきますよう、同窓会員の皆
様の多数の参加をお待ち申し上げております。
最後に同窓会員の皆様のますますのご活躍
を祈念申し上げます。

同窓の絆を固めよう

同窓会長

大友 恒 則



我々が在学時代お世話頂いた奥山政雄先生、私が在学中所属させてもらったスキ一部先輩、奥山長紀さんの御岳父は、冊子『興譲館のあゆみ』に、次のように記しておられます。

「興譲館精神とは失われた過去の単なる遺物であるうか。それは、我々現代人の精神生活には何の関係もなく、これを忘れ去り、これをかえりみなくても、われわれは失うものがないのであろうか。」という強烈な呼びかけのあと、「しかし、我々はそこに、不滅の一貫した精神の流れを感

得するのである。」と。

私は先生のような素晴らしい文章で母校のすばらしさをあらわす語彙を持ち合わせてはいないが、奥山先生が記された文は、私のこれまでの生き方に繋がっていると信じていたい。もちろん、このような思いは私だけでなく、同窓会を支えて下さる全ての方々に言えることでもあります。

私は同窓会長の任務をいただいてから、地元米沢支部は勿論東京支部、関西支部、宮城支部、山形支部等の総会に参加させて頂きました。この日は、興譲館で学ばれた仲間が心を一つにするひと時ですが、その際いつも感じるのは皆様の母校に対する敬愛の念であります。まさに奥山先生の念



じられた思い、凱歌に詠われている歌詞を思い浮かべることです。

話は変わりますが、近年、学年の絆を確認するかのよう「学年誌」を発刊される学年が多いようです。何冊か読ませて頂きましたが、すべて感動しました。また、毎年、学年の集い、更には恩師と共に旅行の例の報告もあります。このような学年としてのまとまりが即、同窓会の活性化に繋がると信じます。

最後に、母校の益々の隆盛と会員の皆様のご健勝を祈念して挨拶と致します。

実り多かった全国支部長会

副会長 小林 擴 二

昨年の同窓会総会・懇親会当日、全国支部長会がもたれた。参加して下さったのは神野民夫（東京）、塚原保夫（宮城）、竹田篤永（山形）、松下鈺三郎（長井・西置賜）、鈴木征治（高島）、相田信（県庁・教育委員会）の諸氏に地元米沢支部から安達治雄・栗林雄二の二名。本部から大友会長以下、副会長、常任理事等、計十六名であった。座長を早川正信副会長にお願いした。

各支部長からそれぞれの支部の総会をはじめとする行事が盛会裡に実施されている旨の報告があった。一方で、若い世代の参加者の伸びなやみが共通して指摘された。

いままでもなく同窓会は、住所と会費が潤滑運営の要件。このあたりの強化はかられるべきであろう。それには若手幹事との連携や他校の現状等も参考になるとの指摘もあった。

幸い本部の総会・懇親会時の担当学年のシステムはうまく機能している旨の評をうけた。

日ごろ支部運営にご苦勞されておられる方々の語りあいを通して明らかになった課題を共有し、次回はそれらの改善にむけた歩みを語りあうことを確認しはじめての支部長会は終了した。



「興譲」の精神を基軸に

校 長 大 貫 英 一



この四月に校長を拝命いたしました大貫英一と申します。平成二十一、二年度に教頭として勤務させていただきましたが、この度再び母校奉職の大役を仰せつかりました。もとより浅学菲才ではありますが、精一杯努めたいと存じますので、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

同窓生の皆様には、常日頃から物心両面にわたり絶大なご支援を賜りまして心から感謝を申し上げます。お蔭をもちまして、生徒たちは、それぞれの目標と意思のもと、とても明るく伸びやかに興譲館生としての日々を送っております。

「文武両道」は本校教育の基盤です。これまであまたの諸先輩が実践してこられたわけでありますが、現在もまた、生徒たちは高い志を掲げ、知力の向上と心身の充実を図り、強靱かつ柔軟な人間力の育成をめざしております。

今、本校は「まなび」の環境において、国や県から大きな力を頂戴しています。昨年度スタートした文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定、そして山形県教育委員会「山形の未来をリードする人材育成事業」の進学指導重点校指定も、同じく二年目に入りました。これらは他に替え難い「まなび」の宝庫と言えます。さらに、本校独自の多くの試みや教育活動は年々熟度を増してきており、それら全てを合わせ、興譲館らしい「まなび」の姿をめざし、懸命に模索しているところでもあります。

また、部活動や生徒自治会活動等「武」の側面も大変活発です。自己鍛錬と仲間との切磋琢磨を積み重ね、ひたむきに努力し続けています。これはまさに本校の伝統でありましょう。

今、私たちは様々な社会的変容を経験しています。ネット環境は著しく進化し、時空の距離感に大きな差異を生みました。また、人口構造は大きな変化を見せ始め、今後社会生活万般に影響を及ぼすと思われます。そして、異常気象や自然災害等は私たちに異様な不安を与えています。その他にも、今まで経験したことのない状況が数多く発生するかもしれません。

それら激変する社会環境の中にあつて、次代を担う興譲館生に必要なことは何でしょうか。それは、未知の状況にあつても平静さを保ち、困難な事態を切り拓いていこうとする挑戦のこのころであり、自らの頭で考えて的確に判断し、他と協働して共に生きていく知恵を生み出す総合的な人間力だと考えます。そしてその基となるものが、本校の伝統的なところ、「興譲」の精神ではないか、と強く思うのであります。

= First Over Sea's H・Q. North American Branch =

New York office in U.S.A.

*Director & Gen.Manager: EBE TAKASHI (1959 Grad)

AD: 525 RIVERDALE AVE (Rm 5G) YONKERS N.Y 10705 U.S.A.

Phone: 1-914-963-1250 (Answering 24h working)

(FAX: also available)

Please contact whenever you want or need.

I'm very Happy to Help anyone of our Alumnus.

From N.Y. in U.S.A.

海外支部たちあげのごあんないです。



成長する、同窓会のために

米沢支部長 早川正信

ここ二、三年、米沢支部にも変化の兆しが見られます。もともと米沢支部の会員は、本部と在郷を共にし本部の行う行事に参加していれば会員としての役割は果たせるうな「屋上屋を重ねる」ような煩雑さを避けることにもなる。しかしさきに「兆し」としたのは、いったんこの関係を壊して(?)みようと試みである。

そこで一昨年から複数の方々から寄せられたご意見もあつて、旧校舎跡地を舞台とし、春には「観桜会」、秋には「懇親会」(いもに会)をもうけ、旧懐にひたりながら現在・未来を年次の柵を超えて歓談しあうことを目的としています。やや詳しくは、春の部は「総

会+懇親会」、秋の方は「小講演会+懇親会」という構成になっています。また、同窓会のような集りはややもすれば若い卒業生が年長の先輩のお説を拝聴するという形に陥り易いが、しかしこうした硬直した弊害(?)は「言葉」によつて乗り越える以外にないと言われる。「言葉、こそその魔力と効力でさらには成長させる力を持つという。

九月に行われる大同窓会の盛況は、大慶以外の何ものでもないが、それとは一味ちがった「言葉」が旧懐と未来の夢に花を咲かせるサロンとなることを祈りたいと思う。それには、やはり支部行事にも関心を払っていたいただきたいものである。

宮城支部の現況

宮城支部長 塚原保夫

平成二十四年米沢興譲館同窓会宮城支部総会は、

十二月八日、十五時よりハーネル仙台において行われ、引き続き、記念講演を昭和二十八年卒の、熱血教官土澤幸雄先生による「土澤幸雄の興譲館イズムと教育史観」のタイトルで行われました。先生の、多くの高等学校での熱心な教育と生き方、それに呼応した若い生徒さん達の熱い反応など心打たれる名講演でした。懐かしいお名前がどんどん出てきて、数十年前にタイムスリップする思いでもありました。

先生は、校名に興譲館のない、しかも校歌もない世代だったと思います。(二十八年卒)。当時の西高

の先生は、大学に移った方々、飲兵衛の先生など多士済々で、東北大学に奉職していた折、日本動物学会

で高校の生物の恩師(山形大学教授)に「塚原くん」と声をかけられたり、高校の時下宿していた椿先生の実家に先生と奥山教頭先生がやって来て、「つかはら!降りてきて呑め!」と大声で怒鳴られ御一緒したこと、

マラソンで白布に宿泊した時、既にきこし召されていた千喜良校長先生に、「おまえたちも大いに呑んで大いに語れ」などとアジられたことなどを感慨深く思い出しました。諸先輩も、大いに懐かしみ、先生に直接指導された若い世代も賑やかに会を盛り上げ、有為会や興譲館寮など行事に重複することが多いため、同窓会支部の唯一の活動は盛会でした。

ひよんなきっかけから長い間科学と教育を職業とすることとなり、私ごとですが伝統や継続について考えることがあります。伝統—人間の意志による継続—の塊である科学は、多くの大小さまざまなブレイクスルーで未来を切り開いてきたのでしよう。伝統とは多分そう言うものではないでしようか。若い力が己がじし未来に自分を投げかける時、それを少しでも手助けすることが出来たのか、更には新しい未来を提示する事が出来たのかを厳しく問い掛けられた気がします。

あの災害より二年数か月が過ぎました。復興は実現しなければなりません。我々市民だけではなく、科学も功罪是非を厳しく問われています。自然科学・社会科学双方が多くのチャレンジに直面しています。頑張ります。

国内外からの御支援を心より感謝いたしております。

先人に学び自ら行う

川越 一郎

(昭和三十五年卒)

大学を出てから、新聞記者生活七年を経てメーカーに転職して三十年、定年となり十二年前から神戸・六甲山北麓に住んでいる。今、思い起こせば記者生活は給料をもらって遊学していたようなもので、名刺一枚で誰にでも会える面白い仕事であった。初任地は大阪、こっぴどく鍛えられた。記事の書き方はもちろん、取材の仕方(裏を必ず取って正確を期し、相手に与える迷惑の度合いを考えよ)、気構えなどにおよぶ。出社して取材しデスクとやり取りがあり原稿を出稿すれば終わりと思いきや、行きつけの居酒屋でさらに教育?を受ける。口酸っぱく言われたことは「卑しくなるな。私情に溺れるな」「世界情勢や国の政策などマクロの変化があったら一般庶民や社会にどんな影響が現れるか。また、身边で起きている様々な現象は何が原因なのか、世界情勢や政策と関係がないのかを常に考えよ」ということであつた。複眼で注

意深くものを見よということだ。

縁あってメーカーに転職した

時、その社長に「天は自ずから助くる者を助く」「為すは為さざるに勝れり」「窮すれば変ず、変ずればすなわち通ず」といつも言われた。景気の変動をもろに受ける会社だったので記者時代に受けた「マクロでミクロを、ミクロでマクロを見る」考え方は大いに役立ったし、東京興讓館寮時代に故宇佐美洵さんから「今の階級より二段上にいるつもりで考え行動せよ」と教えられたことも処世訓として座右に置いた。

先人から教えられることは多いが、果たしてどれだけそれを血肉にして活用していただろうか。振り返って思わず赤面、汗顔する。今でも本や雑誌から気に入った言葉を手帳にメモする。また毎日、早朝ウォーキングを楽しんでいるが樹木、草花、鳥、天候など自然の演出する事象はその不思議さ、巧妙さ、たくましさ、可憐さを教えてくれる。これは絵にする。まだまだ何も知らない。果てしない。知るこ

同期に声を掛けて

佐藤 秀人

(平成五年卒)

今年度は二回目の幹事学年です。幹事を担当するまでは同窓会(懇親会)への出席も消極的で、同期に声を掛けることもありませんでした。さらに、幹事を担当することなど知らなかったもので、毎年同じ顔ぶれ

なのだろうと思っていました。それが、幹事を担当してみて、さあ大変!同期の仲間が何処で何をしているのか(どんな職に就いているのか)まったく知らず、人数を集める事ができないどころか、他の幹事学年の方々に多大なる迷惑を掛けてしまいました。これではいけないと思い、一回目の幹事で手伝ってくれたメンバーと「次回は早めに動いて、人数を集めよう」と相談はしたものの、五年という歳月がその決意・熱意を徐々に冷却していききました。のど元過ぎれば何とやら、結局、五年後の今年も

前回同様慌ただしく動き回っています。

しかし、前回のような失態は避けなければと思い、可能な限り連絡を取り合いました。

中学校の教員・医者・銀行員・会社の社長・会社の上役・高校の教員・公務員など(我々の学年に限った事ではないが)多くの同期・卒業生が多くの場面で中心となつて地域社会の為に活躍している事がわかりました。

興讓館の卒業生だけが活躍しているわけではありませんが、中心的存在として頑張っていることを実感したとともに、「こんなにも同期が近くにいないじゃないか!」と安心もしました。

今年のスローガンは平成十五年卒業の皆さんが考えて下さいました。平成年代が頑張り興讓館の伝統を後世に繋いでいかなくてはいけないのかなと思つたところです。最後になりますが、この場をお借りして大変恐縮ではございますが、平成五年卒業生の皆様、頑張ろうではありませんか!

米沢興讓館同窓会

平成25年度 總會・大懇親会 ごあんない

- 一、日時 平成二十五年九月二十一日(土曜日)
- 一、会場 グランドホクヨウ(市内金池二丁目)
- 一、日程 ①総会 午後四時半
②大懇親会 午後六時

米沢興讓館同窓会 会長 大友恒則

平成二十五年度同窓会總會・懇親会 実行委員長 船山隆

(昭和五十三年卒)

◎平成23年度 同窓会会計決算書

(会計年度 平成23年9月1日～平成24年8月31日)

収入の部

(単位:円)

項 目	予算額	収入額	増減(△)	備 考
繰越金	1,596,955	1,596,955	0	前年度繰越金
入会費	1,393,000	1,393,000	0	7,000円×199名
年会費	2,300,000	1,350,000	△950,000	
過年度会費	0	150,000	150,000	昭和51年卒
雑収入	1,045	13,179	12,134	預金利子・会員名簿売上
計	5,291,000	4,503,134	△787,866	

決算額

収入済額 4,503,134円 - 支出済額 3,496,498円
= 残額 1,006,636円(次年度へ繰越)

支出の部

(単位:円)

項 目	予算額	支出額	残 額	備 考
運営費	1,280,000	1,176,860	103,140	
会議費	120,000	101,721	18,279	理事会等
通信連絡費	50,000	8,285	41,715	郵便切手
需用費	180,000	157,653	22,347	用紙・封筒・マスターインク・弔電
人件費	930,000	909,201	20,799	人件費会計へ繰出し
事業費	2,635,250	1,819,638	815,612	
一般事業費	2,120,000	1,286,028	833,972	各支部総会(旅費・お祝い)・高鍋高校交流事業・総会補助金・HP運営費・会報送料補助・SSH看板等
卒業記念費	200,000	218,360	△18,360	記念品代(199名分)
表彰費	15,250	15,250	0	永年勤続者(1名)
会報費	300,000	300,000	0	会報第41号7,000部
財政安定積立金	500,000	500,000	0	
財政安定積立金繰入	500,000	500,000	0	
予備費	875,750	0	875,750	
予備費	875,750	0	875,750	
計	5,291,000	3,496,498	1,794,502	

◎平成24年度 事業計画

- ①母校振興発展に必要な事業
②会員の親睦に関する事項

- ③会報の発行
④その他、目的達成に必要な事項

◎平成24年度 同窓会会計予算書

(会計年度 平成24年9月1日～平成25年8月31日)

収入の部

(単位:円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
繰越金	1,006,636	1,596,955	△590,319	前年度繰越金
入会金	1,372,000	1,393,000	△21,000	7,000円×196名
年会費	2,300,000	2,300,000	0	昭39年～平15年まで5万円(40学年) 昭29年～38年まで3万円(10学年)
雑収入	1,364	1,045	319	預金利子
計	4,680,000	5,291,000	△611,000	

支出の部

(単位:円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	備 考
運営費	1,260,000	1,280,000	△20,000	
会議費	120,000	120,000	0	理事会等
通信連絡費	30,000	50,000	△20,000	郵便切手
需用費	180,000	180,000	0	慶弔、事務用品
人件費	930,000	930,000	0	人件費等880,000+50,000(9月手当)
事業費	2,611,000	2,635,250	△24,250	
一般事業費	2,000,000	2,120,000	△120,000	各支部総会、高鍋高校交流事業、会報送料補助、HP運営費等
卒業記念費	250,000	200,000	50,000	記念品代(196名分)
表彰費	61,000	15,250	45,750	永年勤続者(4名)
会報費	300,000	300,000	0	印刷費
財政安定積立金	0	500,000	△500,000	
財政安定積立金繰入	0	500,000	△500,000	将来の収入不足や支出増加に備える準備金
予備費	809,000	875,750	△66,750	
予備費	809,000	875,750	△66,750	
計	4,680,000	5,291,000	△611,000	

米沢興讓館同窓会支部役員

◎本部

会 長 大友 恒則
副 会 長 早川 正信 小林 擴二 中條 淳子
監 事 野口 義人 江部 寛 土田 一成
常務理事 遠藤 岩根
常任理事 平山孫兵衛 小嶋彌左衛門 渡辺 節子
佐野 隆一 鈴木 基 加藤 英樹
藤倉万里子 益子 光子 佐藤 詠一
安部 徳朗

◇米沢支部

支 部 長 早川 正信
〒992-0054 山形県米沢市城西3-2-36
☎0238-22-6780

副支部長 菅野 武巳
監 事 安達 治雄 安田 道隆
幹 事 長 相田 修一
事務局長 栗林 雄二

◇東京支部

支 部 長 神野 民夫
〒187-0044 東京都小平市喜平町3-2-2-506
☎042-321-8047

副支部長 吉田 仁志
幹 事 長 宮坂 孝夫

◇関西支部

支 部 長 吉田 真
〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町2-5
☎075-721-1743

副支部長 佐藤 吉憲 山口 隆夫
幹 事 長 中川 勉
事務局長 福士 明博

◇宮城支部

支 部 長 塚原 保夫
〒981-0952
宮城県仙台市青葉区中山5-7-33
☎022-278-3063

副支部長 和田美知子 御供 政敏 田林 暁一
森下 和夫
事務局長 安部 雅人

◇山形支部

支 部 長 堤 孝雄
〒990-2494 山形県山形市末広町9-8
☎023-624-0466

副支部長 後藤 寛 竹田 篤永
幹 事 長 生亀 寿子
幹 事 高橋 宏一 横井 洋子 加藤 章
監 事 浅間 幸助
岩沼 甫 大内 勇

◇高畠支部

支 部 長 登坂 捷一
〒992-0351
山形県東置賜郡高畠町高畠2152-23
☎0238-52-0017

副支部長 梅津伊兵衛 星 寛治
幹 事 長 鈴木 征治
事務局長 金田 成康

◇赤湯支部

支 部 長 佐藤 有弘
〒999-2231 山形県南陽市二色根373
☎0238-43-6660

副支部長 石岡 忠一 須藤 清市
事務局長 三ヶ山岩男

◇宮内支部

支 部 長 山水 克美
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172
☎0238-47-7055

副支部長 長谷川 剛 高岡 亮一
幹 事 長 樋口 一志

◇小国支部

支 部 長 高橋 清人
〒999-1353
山形県西置賜郡小国町大字兵庫館2-3-14
☎0238-62-2714

副支部長 伊藤 通芳 小林新太郎
事務局長 高野 健人

◇長井・西置賜支部

支 部 長 松下鈺三郎
〒993-0007 山形県長井市本町1-9-27-3
☎0238-88-2538

副支部長 井上 俊雄 芳賀 康雄
代表幹事 渡部 秀一
事務局長 斎藤 道郎

◇県庁・教育委員会支部

支 部 長 相田 信
〒990-2332 山形県山形市飯田3-7-3-8
☎023-634-5680

副支部長 渡部 慶蔵
幹 事 長 若月 雅博

◇校内同窓会役員

理 事 五十嵐文彦 石黒 宏治
幹 事 加藤 泰弘 猪俣 幸一 船山 洋子



地域とともに

石黒宏治



興譲館は勉強ばかりやっている。そんなことを言われていたこともありましたが、今学校では、地域の中での様々な活動に参加して

います。上杉鷹山公生誕二五〇年祭(平成十三年)を機に、地域参加・地域貢献ということで上杉雪灯籠まつりに参加し、自治会や

川河川敷や南米沢駅の清掃活動、花の植栽などを毎年行っています。部活動単位では野球部や弓道部が冬期間雪おろしのボランティアに参加しています。もし本校生の活動を見かけましたら、ぜひお声掛けください。先輩からの激励は生徒たちにとって大変励みになると思います。

今も生徒たちは勉強と部活動に励み忙しい毎日を送っています。その中で地域ボランティア活動に取り組んでいます。



◀ 科学フェスティバルin米沢



▶ 九月十日 興道東部保育園

部活動単位で雪灯籠や雪像を作成しています。最近では、吹奏楽研究クラブが上杉まつりや上杉雪灯籠まつりにおいて伝国の杜のステージで演奏を披露しています。また、老人福祉施設や幼稚園・保育園での出前ライブ、避難者支援センター「おいで」クリスマス会出前ライブなど市内各地で音楽を通してかわりを持つ活動を行っています。その他各学年では、ボランティア活動として、学校周辺や松

理数科の生徒が参加している地域の各種行事があります。七月の「科学フェスティバルinよねざわ」では本校生がティーチングアシスタントとなり、また、十月の米沢市生涯学習フェスティバルの「モバイルキッズケミラボ」では子供向けの体験的科学実験教室の先生となつて実験指導を行っています。さらに、十月の南原文化祭では「KJOケミラボ」子供向け体験的科学実験講座を開き、広く地域社会に科学の楽しさの涵養を図る試みを行っています。

自分が地域社会の一員であることを実感し、地域社会に貢献することの大切さを学ぶこと。学校とは異なる場所の異年齢、同年齢の人間関係を通して、他者への共感と自分が役に立っている実感と実感できることなどボランティア活動の意義は大きなものがあります。

二〇一一年三月東日本大震災の時、学校に登校できない、部活動もできない期間がありました。生徒個人の意志で、市内の避難所な

どで本校生七十名余りがボランティアとして支援活動に参加したそうです。後日の聞き取り調査で判明しました。

高校生活を終えると、多くが大学進学で地元を離れます。興譲の精神を受け継いだ後輩たちが「世のために尽くす」人材となつて、地元だけでなく日本、世界の発展に貢献してくれるものと思っています。